

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小阪公営住宅その2	階数	地上11F
建設地	大阪府堺市中区小阪	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	267 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年9月 予定	評価の実施日	2011年10月1日
敷地面積	3,673 m ²	作成者	㈱三座建築事務所
建築面積	767 m ²	確認日	
延床面積	6,149 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> 自然エネルギー利用や省エネルギー対策に取り組んだ住宅(太陽光パネルの設置、建物の長寿命化によるライフサイクルコストの縮小) 周辺環境に配慮し、コミュニティの活性化を目指した計画(広場や緑地の確保、集会所の整備、団地周辺への圧迫感軽減を考慮した高さ計画) 	<ul style="list-style-type: none"> 現況の地形を活かした配置計画による地域特性の継承と景観への配慮 景観形成への配慮: 入居者及び地域住民が親しみのもてる立面、色彩計画
Q1 室内環境 ・サッシは遮音等級T-2とし開口部遮音性能の確保(空気伝搬音の遮断性能Rm(1/3)-25相当以上を確保) ・冷暖房に使用するエネルギー削減のため断熱化(住宅性能評価基準の省エネルギー対策等級3)	Q2 サービス性能 ・バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満足 ・建設コストに留意した上での維持管理に配慮した計画(更新必要間隔が長い給排水配管材の選定、更新時の空間的ゆとりを確保: 階高2.9m以上)
LR1 エネルギー ・ライフサイクルコストの縮減やCO ₂ 削減に配慮(構造躯体は住宅性能評価基準の劣化対策等級3) ・自然エネルギーの利用に努める(屋根に太陽光パネルを設置)	LR2 資源・マテリアル ・堺市グリーン調達方針によるグリーン調達品・リサイクル資材採用の推進 ・VOC対策を含め、可能な限り化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材を使用する
	LR3 敷地外環境 ・風環境解析を実施 計画建物周辺の風環境に関し、建設前と建設後の風速比により風の性状変化を把握。ビューフォート風力階級2の範疇であり、住宅地として一般的な変化であることを確認

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



1. 建物概要	建物名称	小阪建替公営住宅第一期建設工事 その2	BEE	BEEランク A
	建設地	中区小阪359番9の一部	1.5	
	主用途/延床面積	集合住宅 / 6,149.34 m ²		

2. 重点項目への取組み

重点項目	評価点	取組み度
CO₂削減	5	
省エネ対策	4	
みどり・ヒートアイランド対策	3	
安全快適な暮らし	4	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

CO ₂ 削減	評価項目		スコア	評価点
地球温暖化への配慮	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価値		5.0	5
省エネ対策	評価項目		スコア	評価点
外皮性能	CASBEE「Q1-2 2.1.3」のスコアによる評価値	建物全体	3.0	4
		住居・宿泊部分	3.0	
建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価値		3.0	
自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価値		3.5	
設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価値		4.8	
効率的運用(集合住宅は対象外)	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価値		対象外	
水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価値		3.4	
みどり・ヒートアイランド対策	評価項目		スコア	評価点
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価値		2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価値		2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価値		2.0	
安全快適な暮らし	評価項目		スコア	評価点
バリアフリー計画	CASBEE「Q2-1 1.1.3」のスコアによる評価値		4.0	4
耐震・免震	CASBEE「Q2-2 2.1」のスコアによる評価値		3.0	
地域性への配慮、快適性の向上	CASBEE「Q3-3 3.1」のスコアによる評価値		4.0	
交通負荷抑制	CASBEE「LR3-2 2.3.3」のスコアによる評価値		4.0	

4. その他

技術の名称	考慮事項
太陽光発電による自然エネルギー利用	自然エネルギー利用によるCO ₂ 削減
特に配慮した事項	
ライフサイクルコストの削減を目指し、建物躯体の長寿命化・設備配管の維持管理の容易さに配慮した	